

「鎌ヶ谷市環境美化対策推進協議会」令和4年度第3回会議 会議録

1 開催日時

令和4年9月30日（金） 午後1時30分～午後2時50分

2 会場

鎌ヶ谷市役所 本庁舎 5階 501会議室

3 出席者

(1) 環境美化対策推進協議会会議委員（14名）

九谷林太郎会長、永井誠副会長、太田尻工副会長、田邊政人委員、岡崎康子委員、千葉頼孝委員、上野磯次郎委員、川田由美子委員、皆川洋子委員、安東美紀子委員、今村喜和子委員、岩井武巳委員、渡邊輝江委員、鈴木知子委員

(2) 事務局（4名）

中川クリーン推進課長、高野主幹、森副主幹、久世主任主事

4 傍聴者

なし

5 会議

会議に先立ち、名簿登載順にて、上野磯次郎委員、川田由美子委員を会議録署名人に選出した。

(1) 議題

①令和4年度「リサイクルフェア」について

（事務局が資料を基に説明）

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：購入した傘は袋に入れるかひもで縛って渡すとあるが、ひもで結ぶのはとても大変だった。

また、1グループに1枚整理券を渡した場合、そのグループの人数が多かった場合に混雑したり、時間がかかってしまうのではないか。

委 員：前は5本だったが、今回は10本になる。10本だと縛るのが大変。

事務局：コロナ対策を踏まえつつ、できる限り販売して環境美化に寄与したいと考える中で、前回は5分で5本だったところ、今回は10分で10本で提案した。

傘を入れる袋とひもについて、袋についてはミスプリントのため無料で納品されたものなので、費用はかからない。前回は袋とひもの

両方を用意したが、束ねるために良い方法があれば伺いたい。  
今回は試験的に整理券方式とした中で、今回は1人5本までだと夫婦で10本買える。今回は1グループ1枚とすると、1グループ5本までに制限されてしまうことを考えると、1枚で10本まで買えるようにしたらどうかとの提案である。

会 長：予算が問題なければだが、幅広で丈夫な輪ゴムを使用できないか。

委 員：袋が余っているのであれば消費してしまった方が良くはないか。

事務局：袋と輪ゴムの両方を用意して、使い勝手や本数で使い分けていただくこととしたい。

委 員：並ぶ際、新型コロナウイルス対策として間隔を2メートル取るような話があるが、そのようにするか、この図はそれを反映したものなのか。また、検温はするのか、本部でやるからいらぬのか。

事務局：整理券配布列については、足元にマーキングする等により2メートルの間隔を取ることを予定している。検温については、産業フェスティバル事務局からは入場口に検温器付きの消毒液を設置すると聞いているので、入場の際に検温していただくと考えている。

委 員：先程の話だが、1グループが10人でも全員ブースに入れるのか。

事務局：今回は6名ずつ案内し、丁度良い感じのように見えた。今回については、1グループにつき2人程度、代表に入らせていただければどうか。

会 長：今回のブースの面積は前回と同じか。

事務局：同じである。

会 長：待機列は雨天でも問題ないか。

事務局：屋内なので雨天でも問題ない。

委 員：1グループ2人までということは、整理券の注意事項などにきちんと書いておく必要がある。

委 員：人数制限については、例外を認めるときりがないのではないか。2人なら2人までにした方が良くないか。

委 員：傘に穴が開いていたりした場合、その交換はどのようにするのか。

事務局：傘については1本1本点検しているが、それでも不良品の話はある。その場合は事務局に言っていただければ返金等で対応する。

委 員：整理券の配布は今年初めてとなるが、今年は整理券を配布するということはどこに書いてあるのか。

事務局：産業フェスティバルで作成しているチラシと、広報かまがやの10月15日号に掲載予定。そのほかに、市で使用しているごみ分別アプリなどにより周知していく予定。

委 員：整理券の赤い字が薄くて目立たないので、濃い色にして欲しい。

事務局：承知した。

会 長：それでは、原案にこれまでの意見を盛り込んで実施していくことでよろしいか。

委 員：（異議なし）

## (2) 報告

### ①令和4年度「ごみの散乱のない快適なまちづくりキャンペーン」について (事務局が資料を基に報告)

会 長：何か質問等はあるか。

委 員：開始時間の10分前集合になるか。

事務局：5分前程度に来ていただければ助かる。

## (3) その他

事務局：前回の会議において、委員の皆さまに、ごみ集積所利用に係る意識の向上について、環境美化につなげるために本協議会としてどういった啓発ができるか、ご意見等を伺ったところだが、委員の方から、「ゴミステーションは、住民の住民による住民のためのものであると考えます。標語を小学生に募って、広報やHP、自治会の回覧で回す等はどうでしょうか。」とのご意見があった。この度頂いた意見や、またそれ以外でもなにか意見やアイデアなどがあればお願いしたい。

会 長：何かご意見等あるか。

委 員：各自治会のごみの集積所に、自分の自治会ではないので置いてはいけないと言われることがあり、近隣の自治会とトラブルになることがある。大きな看板等で地区全体の集積所ですよというものをやっていただけるとありがたい。

事務局：今のはごみゼロ運動の集積所の話と思うが、東鎌ケ谷の自治会は連合が崩れたこともあり、単位自治会で集積所の管理をしていると思うが、その単位自治会ではない方はここには捨てられないとの話があったことは聞いている。持ってきたごみについては回収しているので、今後スムーズに行くよう工夫してまいりたい。

委 員：啓発物だけだと見ない人もいる。以前、自治会との意見交換会があるとの話があったが、ごみステーションを管理している人が一番大変なので、そういった方が、困っていることなどを直接発信できる話し合いの場があると良いのかなと思う。そういう場があれば私も参加して話をしたい。

会 長：古い住宅については、きちんと場所を決めており、また新しい住宅については建築会社がここにごみステーションを設けなさいという指導がある。ところが、古いところと新しいところの境、今までここに出していたのに、新しく出来たから嫌だと言い出す人がいる。スペースがあれば良いが、難しい場合がたくさん出てくる。これは、こうしなきゃいけないということしかないと思うので、やはり近所同士の話し合い、コミュニケーションが取れていないと。

委 員：ごみの問題というのは地域のもの。新しく入ってきた人が、今ある

ごみステーションが自分の家の玄関だということで問題になる。そういったときに話し合いをしてもお互いに譲らない。本来は、迷惑のかからない程度のところに地域の人たちが同意してやるが、それをわざわざ私たちがそういった機会をつくるのではなく、地域の中でやるべきだと思っている。新しく来た人はごみ出しのことは税金を払っているのだから税金でやるのが当たり前だと言うが、それをやっていたら地域はごちゃごちゃになる。会長が言ったように、地域でコミュニケーションをとることが大切なところである。だから、どこかに任せれば良いという問題ではないと思う。住みよい地域を作るために、地域が意思疎通をしたり、誰かに頼むのではなく誰かが声掛けをしていくべきだと思う。また、アパートなどは色々な人が来るため分別がされてないこともあるが、きちんとごみステーションが作られていて、管理の人が貼り紙などしてやっているようである。自分のところは班や自治会が別だから駄目だということではなく、当番もない。皆で気を付けて出しましょうという気持ちがとても大事だと思う。どこの誰かもわからない人がポイ捨てして行くこともあるが、きれいにしていれば段々ごみを置きづらくなるのかなと。ソフトなやり方だが、そういう大らかな気持ちでいること、強制しないで、地域の話で自分たちでやっていくことが大事だと思う。

会 長：素晴らしい意見だと思う。この件についてはここで結論を出すことはしないが、基本は住民のコミュニケーションだということは間違いなくある。皆さんがきれいにすれば、気持ちが良いじゃないか、ということを理解していただきたいところだが、長い目で皆がいつもそう思っていれば変わってくるのではないかと思っている。もちろん1足す1が2になるようなことができるならやりたいが、そう簡単ではない。気持ちを持って行きましょうよ、ということ。

委 員：高齢者や障がい者でごみステーションまでごみが出せない人は、市に問い合わせすれば自分の玄関先まで取りに行く方法があるので、そういったことを周知するのが良いと思う。

そのほかに特に質疑等なく閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するために次に署名する。

令和4年10月14日

氏名 上野磯次郎

氏名 川田由美子